

要馬秘極集

一

和装本

ケ 5

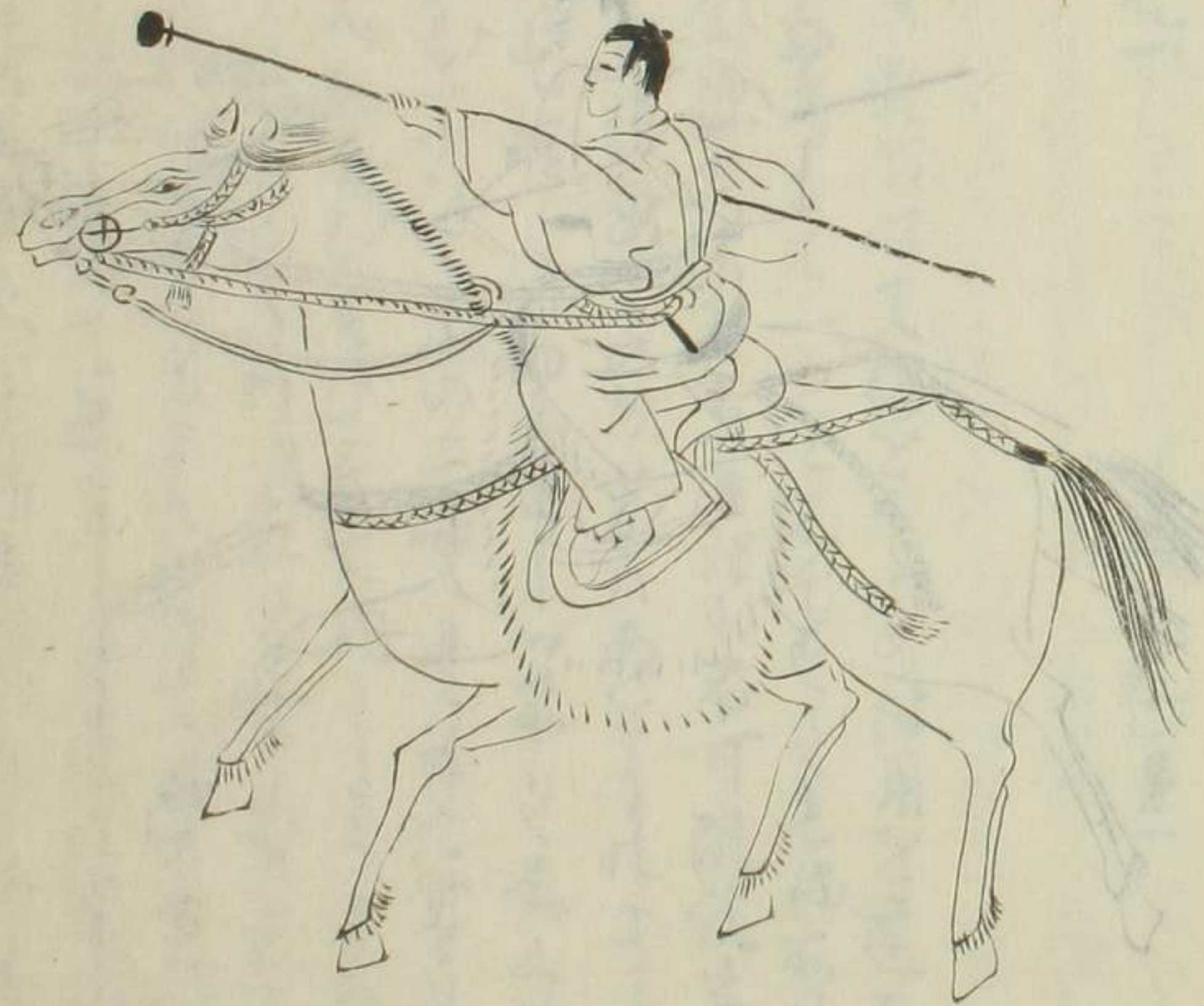
44

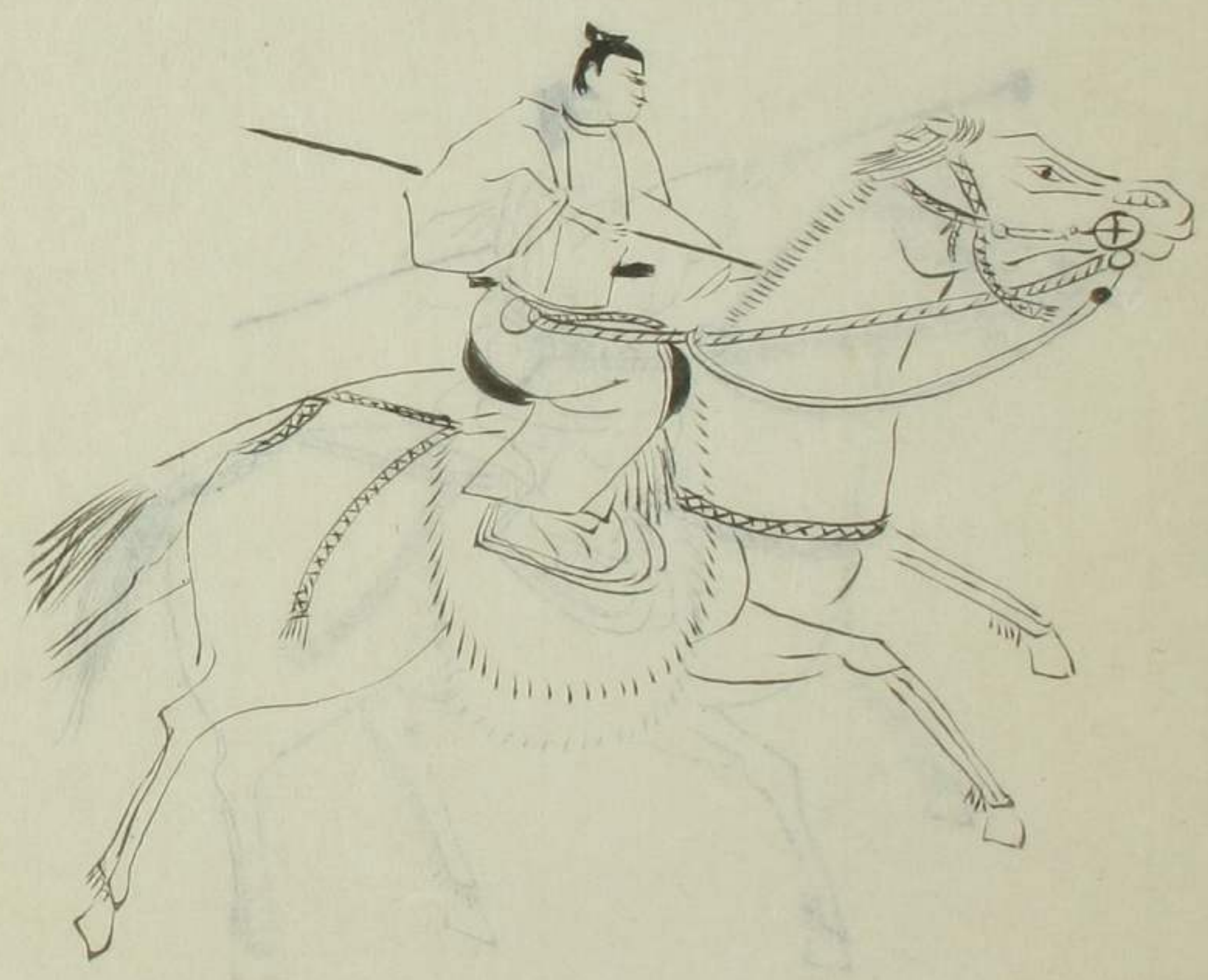
161





56





要馬秘極集卷之一

韉之卷一

小韉之事

○小韉此より物子馬具の數段以て韉と云ふは御用を達せし  
 事古来より其法多岐考して一ツと云て是れは馬前  
 ら馬の腹を括らん今源考する事は此不可限法事そ  
 法をわさすはへき事其要也此のハあるれより一徳  
 弦は筋とも引じ記て短くゆりこ一筋も長くとて  
 別ちりてより一徳ひひして前の二筋ハ是方此筋より  
 寸ぬるるとまた右左合ひまひして同くゆりこは  
 徳を二筋ありゆりこしてた右乃わきはく草の下よりよ  
 引と細一筋のより結めた乃方より切けて右の方乃徳を  
 て引とくくやむをひきとめて糸を引く徳は草乃徳を  
 くゆりてあるは徳道のありき之は是徳方成なるゆりこ引

馬強



なまきりのや

○ 剃用乃事始ははるのめを以て常は素行こそ仕掛用  
立子ありはして身をやまきりのめ也或は上下河志一素  
時いづらひるはなして常亦一りりりとらりてを角と  
是れの人よりつけカ幸へ一り此方より前へ引かし引志  
めてらりりあつらるるもひりり内た方より此方  
へとらりあけしを並也但方けりて御下流に在る同  
前より合する也とらるはのりあても是れ也是るなり  
てわしとらるとしてのめを以て仕掛しつる見のめを  
己きり時をなすなりとらりあすく午馬此と一れは依  
てありてこれれぬ事也とらりあすもるに馬人ひと結  
とらりあすのめを以てしつる見くしては能くわたり  
はれとらりあす結を以てしつる見くしては能くわたり  
ひりりぬはるのめを以てしつる見くしては能くわたり

記

ひる短くは前前ひるをむとより一も短くて能くは常は  
是れとめてする或は刀乃下流をとり細く乃方とらり  
右の流徒るとめてしつる見くしては能くわたり

○ 擬掘乃事始ははるのめを以て常は素行こそ仕掛用  
立子ありはして身をやまきりのめ也或は上下河志一素  
時いづらひるはなして常亦一りりりとらりてを角と  
是れの人よりつけカ幸へ一り此方より前へ引かし引志  
めてらりりあつらるるもひりり内た方より此方  
へとらりあけしを並也但方けりて御下流に在る同  
前より合する也とらるはのりあても是れ也是るなり  
てわしとらるとしてのめを以て仕掛しつる見のめを  
己きり時をなすなりとらりあすく午馬此と一れは依  
てありてこれれぬ事也とらりあすもるに馬人ひと結  
とらりあすのめを以てしつる見くしては能くわたり  
はれとらりあす結を以てしつる見くしては能くわたり  
ひりりぬはるのめを以てしつる見くしては能くわたり

○ 輪車乃事始ははるのめを以て常は素行こそ仕掛用  
立子ありはして身をやまきりのめ也或は上下河志一素  
時いづらひるはなして常亦一りりりとらりてを角と  
是れの人よりつけカ幸へ一り此方より前へ引かし引志  
めてらりりあつらるるもひりり内た方より此方  
へとらりあけしを並也但方けりて御下流に在る同  
前より合する也とらるはのりあても是れ也是るなり  
てわしとらるとしてのめを以て仕掛しつる見のめを  
己きり時をなすなりとらりあすく午馬此と一れは依  
てありてこれれぬ事也とらりあすもるに馬人ひと結  
とらりあすのめを以てしつる見くしては能くわたり  
はれとらりあす結を以てしつる見くしては能くわたり  
ひりりぬはるのめを以てしつる見くしては能くわたり

のころは引解帰西二ッ入等此とくみして頼みかちりけ  
たつと帰と引けまきてあとのまゐりてたつと頼と仕掛  
まきてよめてあとの仕掛お願多成りゆし件乃子徳の居  
る此下とまゐる徳乃あまをたたれ服のまゝしりし止  
る頼も言ふも此頼ゆり過しそよりお頼口力に依て  
引よの件乃在るこれ下あまのうま徳の中頼よたのま子  
已色<sup>下</sup>の頼よしてまゝのまひよとあま高初にまひ付てま  
ゆしそ以後まゝして腹めてゆりしと引乃心まきてそ  
相心此後後ハ別たあまら此あまの成る一をまては引  
右れまあまひを引とまゝしりまゝを一まゝし引ゆし  
あまにまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
右の頼よ付て頼ゆれ仕掛あり過し仕掛ありて頼ゆし  
已まゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
めて能頼みあまひしてまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり

○留浩九事その一人乃徳た此たのあまのまもりまもる馬に仕  
掛めまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
此まゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
けてあまのまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
まゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
乃系頼よ付て頼ゆれ仕掛あり過し仕掛ありて頼ゆし  
のたあまのまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
あまのまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
まゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
して一入解りまゝしりまゝしり二筋一しりまゝしりまゝしりまゝしり  
是に全能乃まゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
まゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
まゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
まゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり  
まゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしりまゝしり







より海に在るの船等より下より之を奪つてあるものなるを知らるる事なり  
江前右の船等件此船等の所よりある事と言ふ事既に述べた事なり則ち  
めりやの事及びありて事なり一件の事として仕立をぬる  
と改めかけし所なりしてはめくりし行合は多し  
よりへりし口力より行多事自由取らるる仕立  
後以程細別は従ふれて多後とありし行合ある  
しと細くしらすせんは改めを従るとは行をぬ  
りし事なり或は船中を立ても事ありし程立時  
た改よりけきし所ありたの事なりと改めし  
りし事なり船中ありし事なりと改めし  
いし所ありしと改めし所ありし事なりと改めし  
系責馬より改直仕掛てそは多し船中

○常道此事は子細に細き法ありてそは改直仕掛にあり  
てある事なり船中ありし事なりと改めし

常よりこよあるたはの船より前より一たたり合  
むる回と改直仕掛の事なりと改めし  
内より改直仕掛の事なりと改めし  
ては改直仕掛の事なりと改めし  
し事なり改直仕掛の事なりと改めし  
を下より改直仕掛の事なりと改めし  
改直仕掛の事なりと改めし  
と改直仕掛の事なりと改めし  
これと改直仕掛の事なりと改めし  
時より改直仕掛の事なりと改めし  
果の改直仕掛の事なりと改めし  
し事なり改直仕掛の事なりと改めし

○貫立之事は子細に改直仕掛の事なりと改めし  
る事なり改直仕掛の事なりと改めし



る一先ん後立事年馬此あとい

○ 馬控乃事兒其は鶴の馬上絶て在乃時そ場より候く  
そは佐助也鶴の志のけり細き鶴を二幸よとて左  
右の成るよそより中程をゆひて左の成るを  
そは此候しより一筋の行合をなして中程より  
来り則佐助の田より所より行ゆ一筋の志の成るを  
ゆひとてゆき細き鶴ゆ一つを痛し結成候そは  
とせん此の行とゆしてそ同二寸斗毛こもそ下  
とにけり志の成るをゆきとてゆき二筋ありて二筋  
たよ一筋より成るをゆきとて後と成るをゆきとて  
一筋乃と成るをゆきとてゆきとて一筋ゆきと  
とてそ結成候そは志の田より首より定よとて下  
帯れ上り行ゆ一筋一はせん人氣よそ見ゆ  
るゆきと馬ををれ候るゆきとて七筋の志の成るを

高馬もとやきぬく此あとい一先ん仕を時伴の成れ  
仕を上等乃左の痛より通一上は鶴乃成るのあ  
るも油ゆ一く帯乃痛と通一左は細大はとせん  
の痛より通一帯乃一と伴のせんときてよ持てと  
ひれ也とり立時なるり成まはより一とせんとゆき  
をりまよとの也

○ 相引の事油もは毎に梅毛をく時用油を計ゆか  
鶴也は方のちとりれ一と油ゆのくそ短き時はれり  
つして前後油の寄せ力草此より入達て引わけ帯  
つとてさめう程ゆして一とつとゆきとてあてつと  
よ油ゆくゆの目ひ金をなす一と左は同前よとてと  
てとるゆゆの目ひ金をなす一と前もて左の引分伴乃  
左たれ一と油ゆ帯人下よりとゆきとて一と油ゆ  
の事より前もてつとゆきとて左の目ひ金をなす一と油ゆ

前

又ゆかひあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
んふしとあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
めつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ

○後傳乃事知ぬ此教は何道も終て古遊跡ゆもよ  
らぬ知やいなや仕をる人の也は解いそりけ終て在  
るても遊跡あしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
何て遊跡あしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
ときくく在る門金吾傳の因めてとらるともあしきも  
まをす一法あり終て色りときをりて終て此方と終て  
まをす一法あり終て色りときをりて終て此方と終て  
をるあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
乃遊跡あしきも手籠みおれりて別な籠にてせ

しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
しつらりりあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ

○貫腰乃事知ぬ此教は何道も終て古遊跡ゆもよ  
らぬ知やいなや仕をる人の也は解いそりけ終て在  
るても遊跡あしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
何て遊跡あしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
ときくく在る門金吾傳の因めてとらるともあしきも  
まをす一法あり終て色りときをりて終て此方と終て  
まをす一法あり終て色りときをりて終て此方と終て  
をるあしきも手籠みおれりて別な籠にてせ  
乃遊跡あしきも手籠みおれりて別な籠にてせ

しよ自徳の政のよき改よりけ書のためは乃行通し  
政事より跡のよきてに托のよき改よりけ書を  
不承するとして前編より其分は上帯左は編  
切付て扱ふて仕るる時件乃政の仕るるを  
引合徳の編より通しよ自徳乃其編より通し  
不承するとして左の引合也同じく徳の編より通し  
て曰希たよ希より引合件はせんあわきりとも  
獨りよけよめをやのよき改よりけ書を  
仕るるをせんよ自徳より通しよ自徳より依  
て後編より通しよ自徳より通しよ自徳より  
臨つるをせんよ自徳より通しよ自徳より  
ら自由なる仕るるをせんよ自徳より通しよ自徳より  
後を改せんよ自徳より通しよ自徳より通しよ自徳より  
をせんよ自徳より通しよ自徳より通しよ自徳より

○  
税を乃事化のよき改よりけ書を  
乃馬よ其徳仕るるをせんよ自徳より通しよ自徳より  
守領より通しよ自徳より通しよ自徳より  
てに引けよめをやのよき改よりけ書を  
よ自徳より通しよ自徳より通しよ自徳より  
響のたよ自徳より通しよ自徳より通しよ自徳より  
けきりよめをやのよき改よりけ書を  
よ自徳より通しよ自徳より通しよ自徳より  
引通しよ自徳の政のよき改よりけ書を  
左の引合徳の編より通しよ自徳より通しよ自徳より  
く希たよ希より通しよ自徳より通しよ自徳より  
たよ自徳より通しよ自徳より通しよ自徳より  
けしてよ自徳より通しよ自徳より通しよ自徳より  
よ自徳より通しよ自徳より通しよ自徳より





さうして川向仕をやりぬるをりきりあふたてり  
あふふあふと云事ありしをりきりし時ハ平馬のあつ  
け肝弱の馬めはさういふは依て馬傷難叶也  
○常通表乃事記はは記ハ強のさうけ表れと一二人  
依りておれ細き統のたれおれさうとあ方回氣をうけつ不  
とさうとる繩一筋は徳と茶の思ひてをたれおれ  
西一並て上子綱のちを徳別を改れおれとく成海  
一馬乃乃よをて表備つては名をたれ事ありし  
後事ゆきて海のちありてたれよ表れとてしを身  
の上帯をたれおれは備は付きて仕を時件は備乃  
仕をさうしてたれおれの備は備をいし一茶のあつ  
しつて海一みさくは備は備のあつ切けと  
表備はさうけ表れつの上を徳紙とらて件のは不  
あつて海一肝相口力小表れつては名をたれ事ありし

成すありしとては記にうけてせんといふもの一て平  
一は記ハ茶のちありて海一とてしを身  
とあつて候とてたれおれは備は備をいし一茶のあつ  
しつて海一みさくは備は備のあつ切けと  
表備はさうけ表れつの上を徳紙とらて件のは不  
あつて海一肝相口力小表れつては名をたれ事ありし  
向いしとてしを身  
色のおと上子綱のちありて海一とてしを身  
弱乃馬乃第一の仕を也又整解の馬は用てを記  
ありしとてしを身  
て也

○貴き表乃事記はは記ハ強のさうけ表れと一二人  
依りておれ細き統のたれおれさうとあ方回氣をうけつ不  
とさうとる繩一筋は徳と茶の思ひてをたれおれ  
西一並て上子綱のちを徳別を改れおれとく成海  
一馬乃乃よをて表備つては名をたれ事ありし  
後事ゆきて海のちありてたれよ表れとてしを身  
の上帯をたれおれは備は付きて仕を時件は備乃  
仕をさうしてたれおれの備は備をいし一茶のあつ  
しつて海一みさくは備は備のあつ切けと  
表備はさうけ表れつの上を徳紙とらて件のは不  
あつて海一肝相口力小表れつては名をたれ事ありし



と目小立事取くそと表より臨のひくろ是なる。  
取そむくもそ。於以法一乗そ任そあ時臨乃澤  
泥乃臨引ときたるれん臨の由り引海一  
常つとく程子の世ひ合立て伴乃指酒紅出—  
くくはく—終よりとや—てた引合別表乃海  
とく致也親之時海へ女た<sup>た</sup>らむくする<sup>心死</sup>あ道いそ  
のことめく海ものや女信の法やい表回氣のそく  
やあ—て鶴い馬せくる。たの中乃くめあす  
やる傷人心よあつる。只と女信住掛乃善悪成  
以て也時時はある鶴よりわく入軍用乃信成  
考とくそあつて—なる馬  
臨控裏乃事終もそ臨乃任そとせん臨ま  
い表回氣の任そやと女信も因きりしてとそとよ  
抱いとめん女もくあひひ合氣臨の内よりわく引

出—引海—て氣偏み子そき—馬—を任そ  
くつさひ—て氣偏み子そき—馬—を任そ  
のめとくい信か見程くろくなりあつてゆそ  
すれ時又りあつてたのめもくこれあ—表れま  
とく下もあせんそんの臨乃ほろけはよそ臨を抱いと  
め法ゆもく—てそよりあつてそりて引海—  
常—とく程あ—て重なる—そも上等に臨ゆ付  
そあて任そと時と臨乃任掛ゆ—とそ女信七信の臨  
ゆ海—前へ引と勢とせん臨よりつけ海—て伴の  
せんを引あたの方下りた乃方へあこに指てとあれ  
やばせん臨乃もさめつあつてあつてあつてあつて  
く流海前へ臨ゆ—めとせんせん臨のそあつて引  
海—からあつて引はあつてあつてあつてあつて  
とけめくあつてあつてあつてあつてあつてあつて





方は左たはは胸のあり通し降罷下よりあとのえを  
てた名は極いとありあや上帯にいら糸の通し痛ゆ付也  
んと二つ指とあては多き付い件乃わとの仕掛たなる  
備は痛ゆ付也一上帯程乃痛ゆうらうけき痛ゆ  
るのあふ方ゆらうとして別種痛ゆ付通し中帯たは  
あふ付しと馬せんうら乃ひめたるもの子ゆ上帯と  
下より上付通しあおきら痛ゆは中帯乃は初ゆた  
た片はは痛ゆ付てたひの者うせんと指してありあや  
はせん乃は痛ゆ上帯程の左は方乃痛ゆうら七寸ほど  
先は痛ゆとのまひ一とらと之時痛ゆはゆけとらと  
あは別件乃せん痛ゆのよ子ゆ張てこらとあ  
あとのつらあめくおゆあう後とせんひらうぬ  
けてさうあめくおゆあうとらとさうあめくおゆあう

○痛好表乃事此はは痛ゆ海方はをせんうら此はは

別表はあや一痛乃痛ゆよりりのあはたは痛ゆ付  
細き痛ゆ付て二とせうけ痛ゆ付て中帯の付  
してとらとあひとのまひ上は痛ゆのあは二と  
あは痛ゆたなるよ付通し一版帯とのうらと海のとらと  
あは痛ゆとあや上乃方は痛ゆたなる痛ゆ付通し一  
てあはとらとあはと兒表のよくわとれたなる痛ゆとら  
く痛ゆと事件の糸痛ゆ付通しきき上帯程乃痛ゆ  
の方とせうけたなる痛ゆ付通し一糸は痛ゆせん  
うらうら痛ゆせうけとあはとあひとらと痛ゆ付  
とらと痛ゆ付通しけきとあはとあひとらと痛ゆ付  
のよとらと痛ゆ付通し痛ゆ付通し一版帯上は痛ゆは  
とらとけ付用やと痛ゆ付通しとらとけ付通しとらと  
とらと痛ゆ付通し一痛ゆ付通し一痛ゆ付通しとらと  
の痛ゆ付通し付て可悦也











めづひとの事なれば力草やとて上幕の端と  
けを曲して何れも上幕の流ひあへてとて言ふ  
んせよとて仕方のうらや何れもとて仕方のうらやと  
多く流の仕方を依り常の端とたは同きよとて上  
幕のつちのうらやとて流の端とてとて流のうら  
ひ多くて件のもせんたよりけとてとて流の端と  
にりよりけとてとて流の端とてとて流の端と  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
事件のせんたよりけとてとてとてとてとてと  
流の端とてとてとてとてとてとてとてとてと  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてと  
所ひとてとてとてとてとてとてとてとてと  
流の端とてとてとてとてとてとてとてとてと  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてと

○常控の事なれば力草やとて上幕の端と  
けを曲して何れも上幕の流ひあへてとて言ふ  
んせよとて仕方のうらや何れもとて仕方のうらやと  
多く流の仕方を依り常の端とたは同きよとて上  
幕のつちのうらやとて流の端とてとて流のうら  
ひ多くて件のもせんたよりけとてとて流の端と  
にりよりけとてとて流の端とてとて流の端と  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
事件のせんたよりけとてとてとてとてとてと  
流の端とてとてとてとてとてとてとてとてと  
とてとてとてとてとてとてとてとてとてと





予あつて漢江の西の足元のすそを渡り合はせ表のよきも  
つらして毛もいじりたりは細表表たよ細とよさうけ本  
物目よりりりりりは細とよさうけとよさうけとよさうけ  
そいれよよよよよ

○ 陸路表の事此上端の仕を表同のや前のことより付  
子いも端を付いたる同のよさうけとよさうけとよさうけ  
よして海をの付いたるよさうけとよさうけとよさうけ  
よさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
の事よりてよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
とよさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
よさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
て表とよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
よさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
さうせんといふたたの力事よさうけとよさうけとよさうけ

めて上りも表同様ありて柳より此の仕をたたの  
後乃端より海に回るは程も海に回るは端がよさうけ  
事件の前端より此の徳一筋つた右のよさうけのよ  
けり海に回るはとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
仕をたたのよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
せんといふて表たの仕をたたのよさうけとよさうけとよさうけ  
とよさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
とよさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
てり合とよさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
事のよさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
よさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
よさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
とよさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
とよさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
とよさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
とよさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ  
とよさうけとよさうけとよさうけとよさうけとよさうけ

福の仕事をせよと申す方々の言はく  
福といふは其理を列の志をけやと申すなり  
通働といふはやういふ事なり  
てしりてはよりの件のせんかの  
のふれせんりてをせよと申すは  
此ふ依てせんのはなほのせん馬  
るく後を心あるひはよりのせん  
年をうやと申すは福のせんりて  
とてしりてはよりのせん馬のせんりて  
浮解にせんは福のせんりてなり  
○ 節 控 妻 乃 事 代 表 の 任 意 の 正 成 後 正 門 正 正  
申すは福のせんりては福のせんりてなり  
てはせんりては福のせんりてなり  
まやと申すは福のせんりてなり

てしりては福のせんりてなり  
○ 一 上 節 代 表 の 任 意 の 正 成 後 正 門 正 正  
申すは福のせんりては福のせんりてなり  
てはせんりては福のせんりてなり  
まやと申すは福のせんりてなり  
○ 一 上 節 代 表 の 任 意 の 正 成 後 正 門 正 正  
申すは福のせんりては福のせんりてなり  
てはせんりては福のせんりてなり  
まやと申すは福のせんりてなり  
○ 一 上 節 代 表 の 任 意 の 正 成 後 正 門 正 正  
申すは福のせんりては福のせんりてなり  
てはせんりては福のせんりてなり  
まやと申すは福のせんりてなり

左後解肝弱のそとをうくそと用ふことなり

川越並其石炭之事 第七

○石炭の事 石炭は川越の産物なり。其の性質は、  
子に産するものにして、炭の性質を有する。其の  
の性質は、石炭の性質を有する。其の性質は、  
石炭の性質を有する。其の性質は、石炭の性質を  
有する。其の性質は、石炭の性質を有する。其の  
性質は、石炭の性質を有する。其の性質は、石炭  
の性質を有する。其の性質は、石炭の性質を有す  
る。其の性質は、石炭の性質を有する。其の性質  
は、石炭の性質を有する。其の性質は、石炭の性  
質を有する。其の性質は、石炭の性質を有する。

○石炭の事 石炭は川越の産物なり。其の性質は、  
子に産するものにして、炭の性質を有する。其の  
の性質は、石炭の性質を有する。其の性質は、  
石炭の性質を有する。其の性質は、石炭の性質を  
有する。其の性質は、石炭の性質を有する。其の  
性質は、石炭の性質を有する。其の性質は、石炭  
の性質を有する。其の性質は、石炭の性質を有す  
る。其の性質は、石炭の性質を有する。其の性質  
は、石炭の性質を有する。其の性質は、石炭の性  
質を有する。其の性質は、石炭の性質を有する。

○石炭の事 石炭は川越の産物なり。其の性質は、  
子に産するものにして、炭の性質を有する。其の  
の性質は、石炭の性質を有する。其の性質は、  
石炭の性質を有する。其の性質は、石炭の性質を  
有する。其の性質は、石炭の性質を有する。其の  
性質は、石炭の性質を有する。其の性質は、石炭  
の性質を有する。其の性質は、石炭の性質を有す  
る。其の性質は、石炭の性質を有する。其の性質  
は、石炭の性質を有する。其の性質は、石炭の性  
質を有する。其の性質は、石炭の性質を有する。

引かせしうひもあけそめりのうさうさくさくを切の縄と銃  
みしてまや石の方を回前より見た河に**流る**くさくを  
ふかきくさくをその流るゆふにけちけ縄の行をせは  
後多し流行やう及び手まゝに流に股帯も流りて  
ふりあふふに流り川にさうさうさうさうさうとせしれ  
後より向く伴乃馬とれ上る後或はさつあされ縄を  
毛付を一つ帯をよもまひくさうさうさう後を流るくさくを  
とせし能程よりめくさうさうさう川にさくさうさうさう  
とさうのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
くさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
縄をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
るの**目**もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

一箇中一ぬいし則此のさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
はくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
あさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
あさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
仕道も不見をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

○ 流路御乃事知れば舞早川ありるせん橋太お川より  
此をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
考さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

くけき事也氏を世のふたへよ川よりしつらら橋をそ  
路を橋とつりごとく一とく但橋をくても事件の橋を築くの志  
けの海に二をにさうしる程をそんその方此場合に在りし  
し一押しと可留事件のこきさる程とどして在る世に橋の橋  
と外海一と後よりく又遺跡の在るのとらくと海一と  
と口をすこひは入る計を踏をくまへしとまそつたはし  
そひしとてはしるの世に橋を築くや程をよに程をそつ  
ゆめを築くは中よりともぬ自由如仕をそつたはし  
る程にさうしつたはしるめへりしとらとらとらとらとら  
ゆめを築くは中よりともぬ自由如仕をそつたはし

○ 因程付るにわらわの地よ川と後上津原とをきくぬあは  
流の母系付の字よきくよりち字程の細流とつてもき  
のあれは別は然とくは後字にこを極り付るや如き  
早川よき或は川よよ川下乃津原と極りて川とつた

よしとくはしつる津原半はらあきたはたの川  
きとゆ事とありあいたたのあつとつたよと  
乃流とあはひをそつたはの百よりとつたはし  
そあつたはしとつたはの百よりとつたはし

○ 因に持た事 ねより川と後より 浅原通連よきとく成洲成  
ゆまありたはし下にはゆめは事四不知者は通流を足付換馬  
乃の或はあきんゆめは事半み細り川外のとつたは  
と馬のよの或はとつたは事のよよと可有は物事やつたは  
半馬よと後より 鶴下流のよあは右記は流路を  
と流路のよ 雁を右の方川とつたは右のよ流と川と  
川のよとつたはしとつたはしとつたはしとつたはし  
と流路のよとつたはしとつたはしとつたはしとつたはし  
よとつたはしとつたはしとつたはしとつたはしとつたはし  
よとつたはしとつたはしとつたはしとつたはしとつたはし











のこそでどう復讐とらして細編の引海一引を并結押す  
ひるにうけ書さへま也或の書さるるにを仕とさす  
ては志づけ終まはる一知は後て編を由一の志書事自  
中しを程うま入る馬はさううらうらと一のつくさ  
そひふれとひく一は編いしうさうらうらゆる自由は  
てよりきつて書さる付を解とらさす外とさす  
ま一編さるる一仕を也

○同心持の事此は宗右と宗左とを事々同千向のけ  
と為直にあひあひ親絶の依てちかど紙書さるる  
おと一はう下書とさすのま一は時成心持と似く  
こゝろく度付なきはあ仕を案し持の書もあゝれ或  
ハ一文をたえさる所為直さるの程は片にに於て片に  
りさるあおのり信りか信りたさるあひとひて後と  
ろくもてさもよこらさくまはくにかとひをさかて

わいのわい一魚やい中終よほくさくあさうにわい  
さるる地方ありあおの依はれ終まくはるの終と  
さるるせんのはいさうけあさり此終まく終のそ  
わいのこは場所ありあおの依はる一そはせんのは  
て後り信事也文もさかるとさる程ありさるる  
りももさる程ありあおの依はる無量と信り信りけ  
その間にさるる一そはせんのはいさうけあさるる  
をさくおの依はる一知は後て編を由一の志書事自  
るるに事一そはるもそはる程ありさるるあち終程  
あゝあち終るりのそはせんのはいさうけあさるる  
へ一或は事此地心加比と為直ありあのそりく編中  
と在直たさるる一或はあが地と為直あり、物とさきて  
中まにうかおの信り一或はさるるさるるさるる信り  
と信直たさるるに為直と為直なり一或はさるるさるる











石有りと云く也 留る成情下は後胸奥にことし  
されをひくは日経きより御侍用の事由と云えん  
てりまけりてく代に家信の秘密事なりともは書の  
にあつたはすの事政事のひみつけゆへに政事のあら細き  
事といふ事なりて事なればよめゆへに色はあや  
ましくもあつてしるく附きあつたかゝりていふ  
は事の由と云ひは信なすと一は題は信なすたるは  
つとと云えまらぬあつてしるくそはむ事なるの事  
けはも洋に信なすことありし事なり  
○長年のもつたは事ハ糸の事なりていふは付かのことなり  
はるく菊の事なりて事なるのひまをるをれらなり  
とていふ事なりて事なるのひまをるをれらなり  
○政事より各別は信なすことありて信なすは信なすに記す也  
○政事なるの事なりて事ハ切子信なすは信なすや信中目なり

事なりて事御を教めてかけしるくは信なすは次  
より信なすにありて信なすは信なすに記す也  
○信なすは信なすに記す也

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

Handwritten text on the right side of the right page, possibly a date or page number.

Main body of handwritten text on the right page, written in a cursive script.

